

雌阿寒岳

1 概況

3月21日、雌阿寒岳の赤沼火口と山頂北西側斜面で小規模な噴火が発生し、雌阿寒岳南東側で微量の降灰が観測されたほか、山頂の北西側斜面ではごく小規模な泥流が発生しました。

雌阿寒岳の火山活動は活発な状態が続いていますので、今後の火山活動に注意が必要です。特に、山頂火口近傍および北西側斜面では注意が必要です。

2 噴火の概要

21日06時28分に振幅の大きな火山性微動が発生し、振幅は徐々に小さくなりながら同日10時30分まで継続しました。気象庁の監視カメラ（山頂火口の南南東約16km）による観測では、微動開始時の噴煙の状況は天候不良のため不明でしたが、08時10分頃に火口縁上400mまで上がり南東に流れる灰色の噴煙が観測されました。赤沼火口における噴火は火山性微動が発生した頃に始まったと考えられます。また、北海道の監視カメラ（山頂火口の西約3.5km）により、北西側斜面の噴火は06時37分頃に始まったことが確認されました。

雌阿寒岳で噴火が発生したのは、1998（平成10年）年11月9日の小噴火以来です。

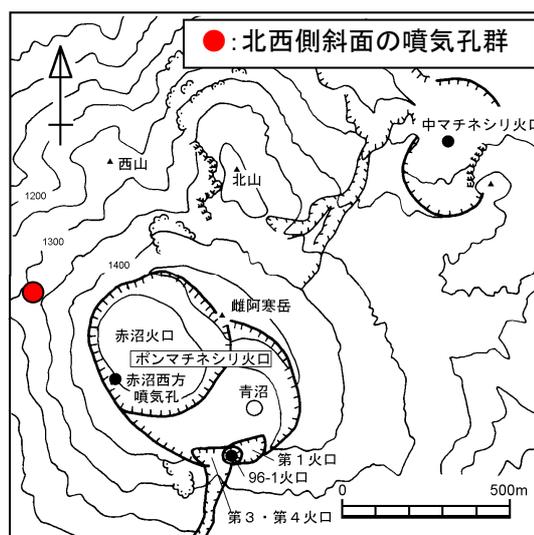
噴火に伴う空振は観測されませんでした。また、GPSによる地殻変動観測では噴火前後で特段の変化はありませんでした。

北海道大学の分析によると、採取した火山灰に新しいマグマ噴出を示す物質は認められず、今回の噴火は小規模な水蒸気爆発であったと推定されます。



北西側上空から撮影した雌阿寒岳山頂付近
(3月22日 札幌管区気象台撮影)

赤沼火口と新たに形成された山頂北西側斜面の噴気孔から白色の噴煙が立ち上り東へ流れていました。



雌阿寒岳 山頂周辺図

3 火口周辺および泥流の状況

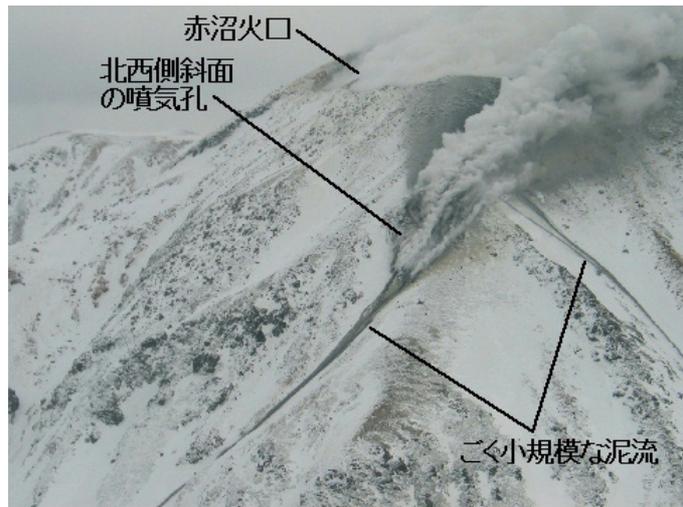
21日に上空から行った観測^{*1}の結果、北西側斜面（標高1,300m付近）に形成された複数の小さな噴気孔と2つの沢を流れるごく小規模な泥流が認められました。22日に実施した上空からの観測^{*2}では、二筋の泥流のうち1つは標高1,000m付近まで達しているのが認められました（幅は数m、長さ約1,000m、3頁の泥流発生位置図参照）。ポンマチネシリ火口周辺では、赤沼火口から南東方向約700～800mの範囲にかけて明瞭な火山灰の痕跡がみられました。赤沼火口は噴煙が充満しており、火口内を観察することはできませんでしたが、火山灰の分布状況および噴火以降の活発な噴煙活動の状況から、赤沼火口内でも噴火したも

雌阿寒岳の火山活動解説資料は気象庁の他に、北海道のデータも使用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています。（承認番号 平17総発、第503号）

のと推定されます。

27 日に行った上空からの観測※2では、赤沼火口内は噴煙が充満し詳細は不明でしたが、火口内の北西から北側にかけて活発な噴煙活動が認められました。噴煙には微量の火山灰が含まれていると思われ、火口付近一帯（特に火口北から東側にかけて）の雪面上に火山灰の痕跡が認められました。北西側斜面の噴気活動も依然活発な状態でしたが、斜面に沿って複数ある噴気孔のうち最下部に位置する噴気孔では噴気活動の低下がみられました。北西側斜面の標高約 1,000m まで流下していた泥流は、その後の積雪に覆われて不明瞭になっており、新たに泥流が発生した痕跡は認められませんでした。ポンマチネシリ 96-1 火口および中マチネシリ火口の状況に異常は認められませんでした。



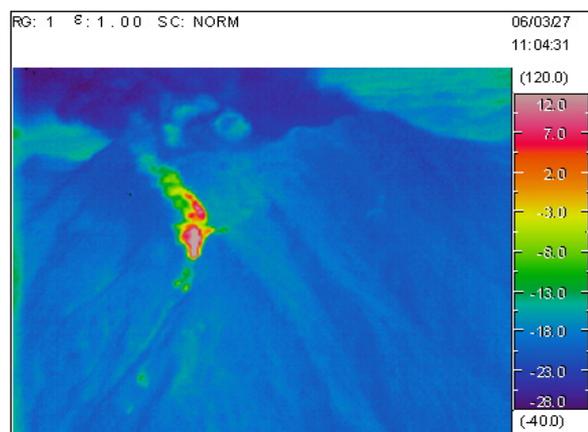
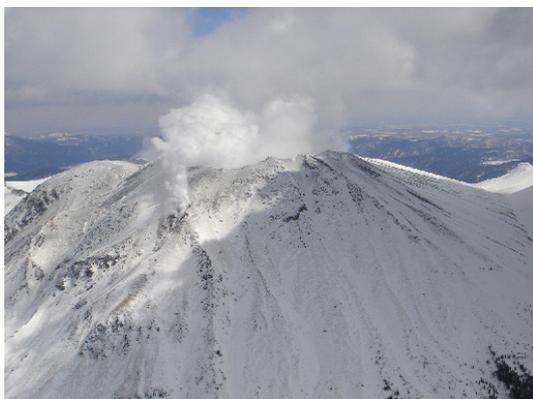
北西側上空から撮影した雌阿寒岳山頂付近
(3月21日13時31分釧路地方気象台撮影)

※1:陸上自衛隊帯広駐屯地第5旅団の協力による ※2:北海道の協力による



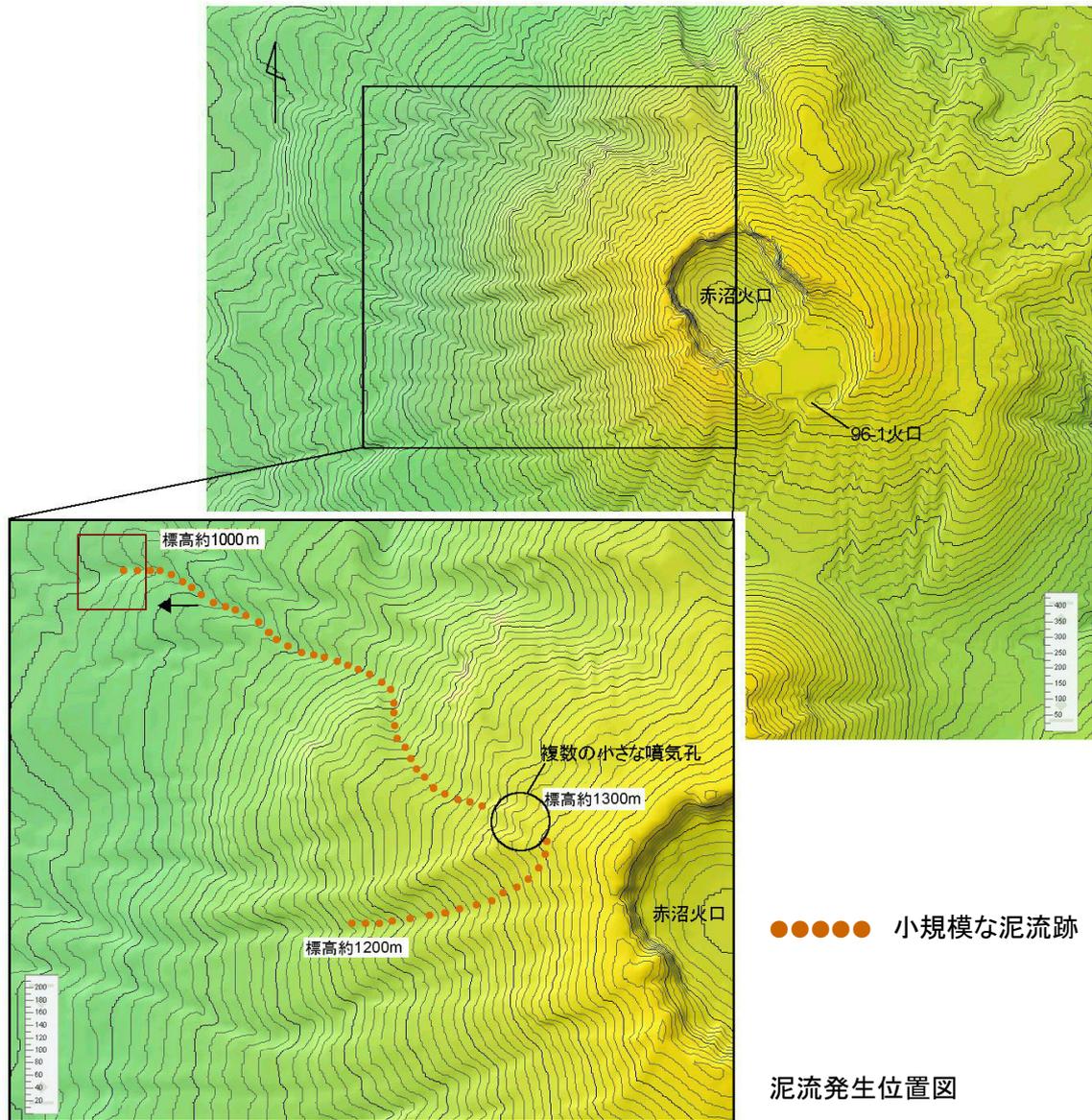
南東方向から撮影したポンマチネシリ火口（左：3月22日 右：3月27日）

赤沼火口からは活発な噴煙活動が認められました。22日の観測では、南東方向に明瞭な降灰跡が確認されましたが、27日の観測では積雪により一部が覆われていました。



赤外熱映像装置*によるポンマチネシリ火口の表面温度分布（3月27日北西側上空から撮影）
北西側斜面に新たに形成された噴気孔部分に対応した高温域が認められました。

* 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。



小規模な噴火に伴い北西側斜面から発生したごく小規模な泥流
（泥流発生位置図の□部を←方向から撮影：3月22日）
ごく小規模な泥流は標高約1,000m程度まで下り、森林限界付近まで達していました

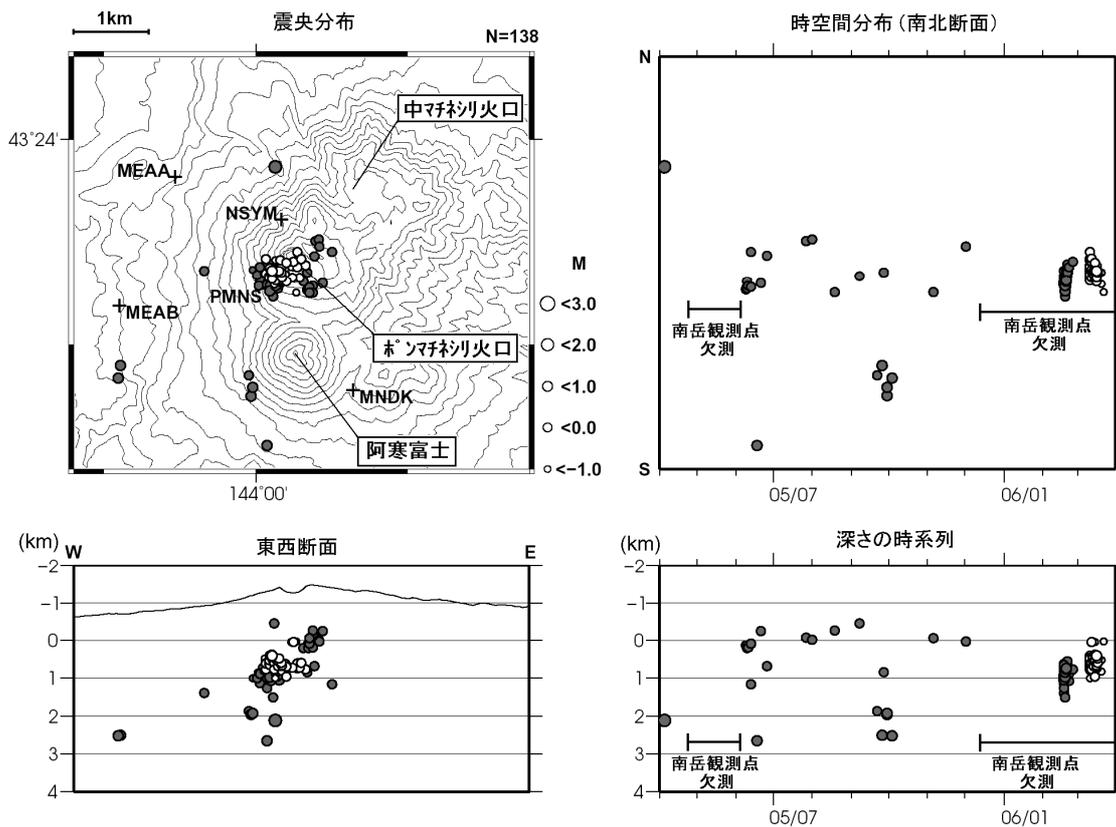
地震・微動の月回数（B点）

2005～2006年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地震回数	20	20	40	14	16	18	22	20	44	22	1129	1183
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	4

※2006年2月および3月の回数は暫定値です。後日変更される場合があります。

火山性微動の発生状況（2000年1月以降、B点での観測結果）

発生年月日		最大振幅（ μm ）	継続時間
2002年3月29日08時03分		約0.5	約3分
2003年1月1日02時07分		約0.1	約1分
2006年 2月	18日09時09分	約0.2	約1分
	18日09時27分	約0.4	約1分
	19日01時03分	約0.1	約1分
	19日06時50分	約0.1	約1分
	20日05時49分	約0.1	約17分
2006年 3月	19日21時58分	約0.2	約1分
	21日06時28分	約4.3	約240分
	23日07時19分	約0.4	約4分
	23日16時54分	約0.1	約3分



雌阿寒岳の震源分布図（丸印：震源、+印：地震観測点）

○印は今期間（2006年3月1日～31日）に求めた震源を示しています。

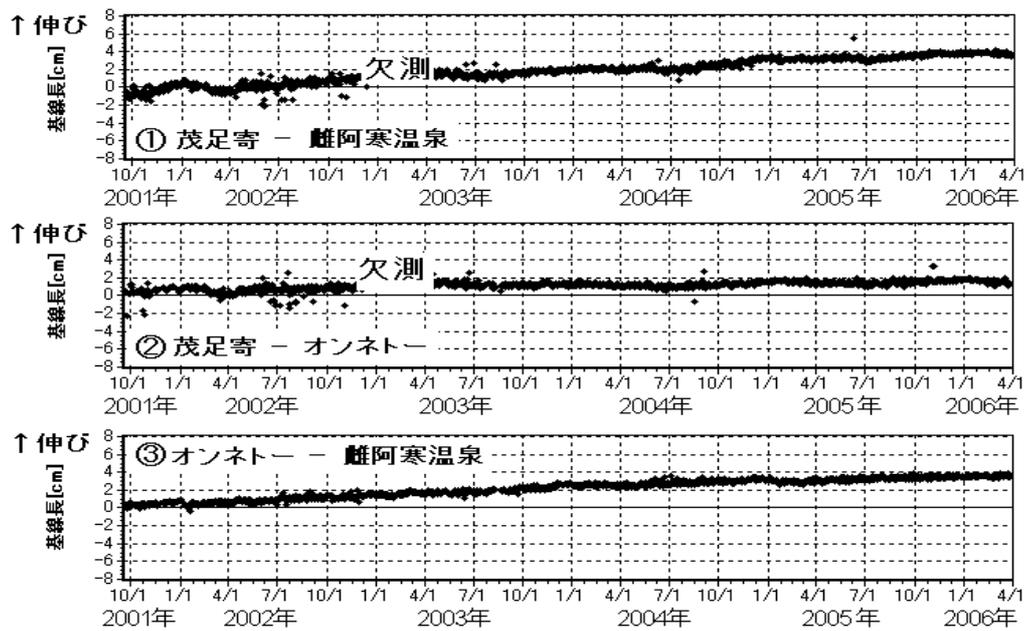
●印は前期間までの11ヶ月間（2005年4月1日～2006年2月28日）に求めた震源を示しています。

これまで雌阿寒岳で発生した地震の多くは、ポンマチネシリ火口直下の海面付近と北西および南西山麓のやや深いところ（海面下約2～3km）に分布していますが、2月18日以降に求めた震源の多くは、ポンマチネシリ火口直下の海面下1km付近に集中しました。

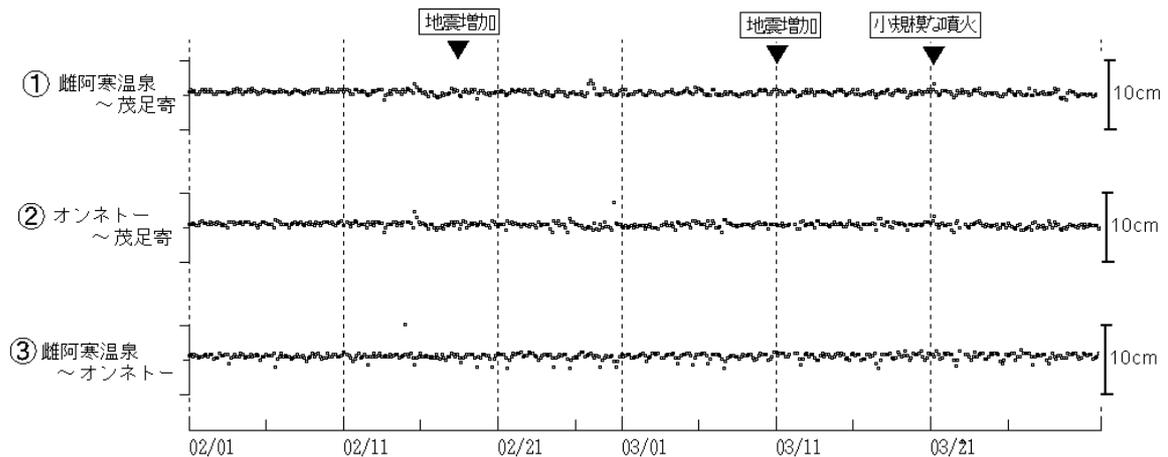
※2005年12月11日以降、南岳観測点障害のため震源決定能力が低下しています。2月18日以降の震源については精度の悪いものも含めているため、後日変更される場合があります。

7 地殻変動の状況

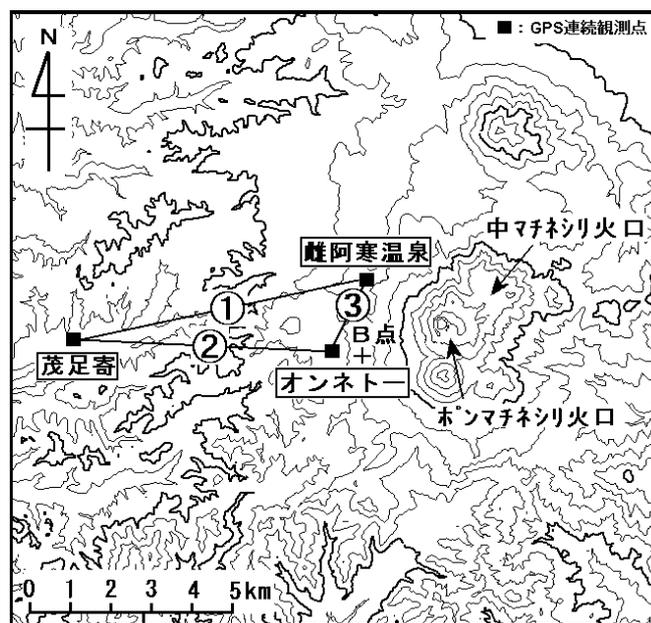
GPS 連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は観測されませんでした。



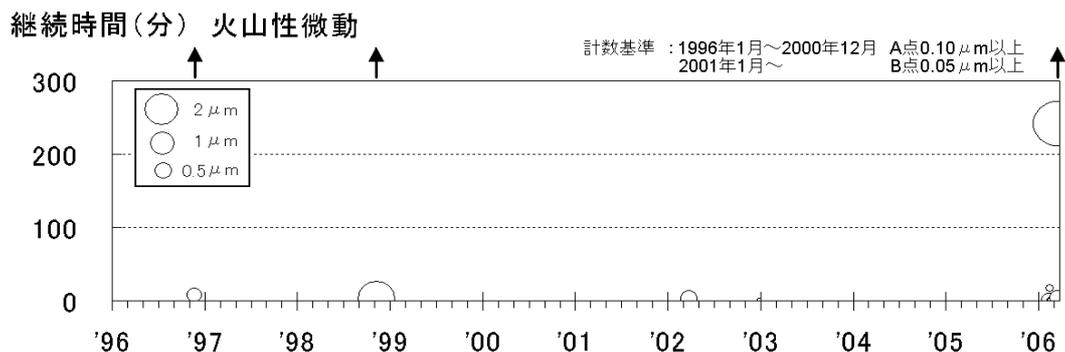
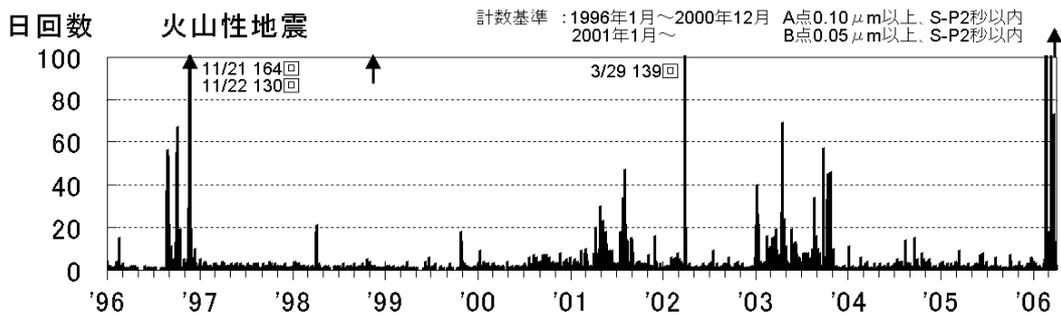
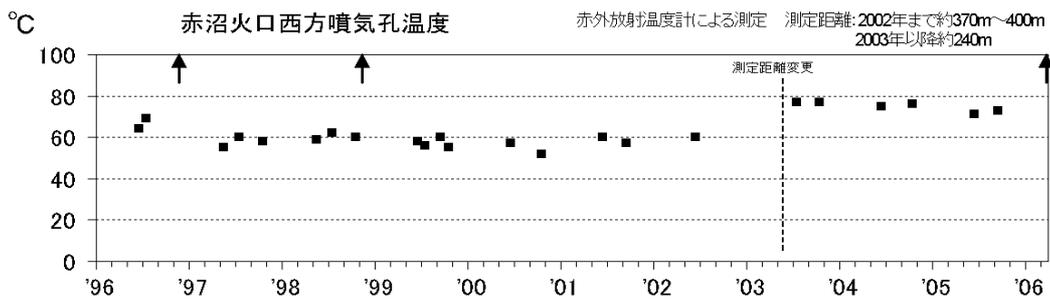
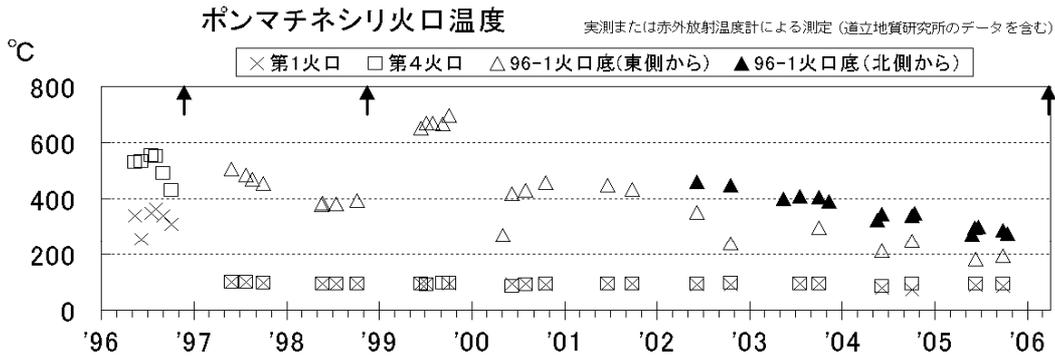
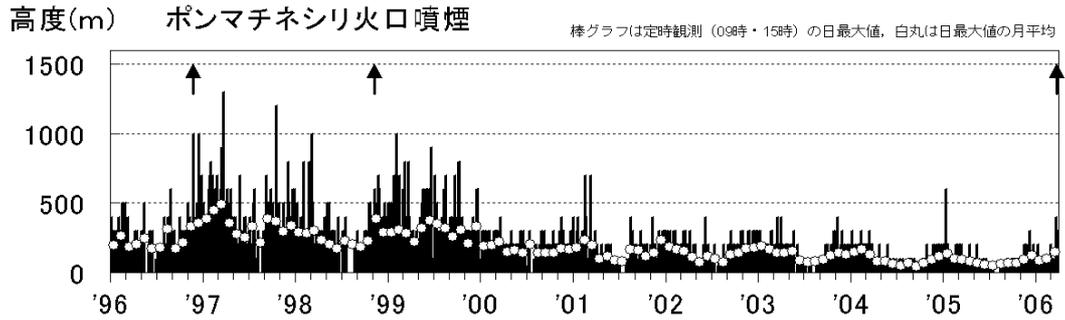
基線長変化 (2001 年 9 月 19 日～2006 年 3 月 31 日)



基線長変化 (2006 年 2 月 1 日～2006 年 3 月 31 日)



GPS 観測点配置図



最近の火山活動経過図 (1996年1月1日~2006年3月31日) ↑印は噴火

○ 火山情報の発表状況（2006 年 3 月）

発表日時	情報番号	内容
11 日 11 時 00 分	火山観測情報第 3 号	火山性地震の増加
12 日 11 時 00 分	火山観測情報第 4 号	その後の状況
21 日 06 時 43 分	臨時火山情報第 1 号	火山性微動発生、噴火の可能性
21 日 07 時 05 分	火山観測情報第 5 号	その後の状況
21 日 08 時 50 分	火山観測情報第 6 号	ごく小規模な噴火の可能性
21 日 10 時 50 分	火山観測情報第 7 号	降灰確認、小規模噴火
21 日 12 時 20 分	火山観測情報第 8 号	降灰調査結果、噴火位置
21 日 16 時 10 分	火山観測情報第 9 号	上空からの観測結果
22 日 10 時 10 分	火山観測情報第 10 号	その後の状況、降灰分析結果
22 日 16 時 30 分	火山観測情報第 11 号	上空からの観測結果、降灰調査結果
23 日 ~ 31 日 (1 日 1 回 16 時頃)	火山観測情報第 12~20 号	その後の状況、上空からの観測結果